

令和元年度
春日市文化財年報

2021

春日市教育委員会

序

春日市は福岡市の南東に隣接しており、恵まれた立地から昭和の高度経済成長期以降、住宅都市として発展しています。昭和47年の市制施行時に、約5万人であった人口は増加の一途をたどり、現在では14.15㎢の面積に約11万人が暮らす、九州で2番目に人口密度の高い市となりました。一方で、市内には“弥生銀座”といわれるほど弥生時代の遺跡が密集しており、国内でも有数の発掘調査成果を挙げております。

本年度は、奴国の青銅器官営工房と称される須玖岡本遺跡坂本地区と最古級の青銅器鋳型が多数出土した須玖タカウタ遺跡の青銅器生産に関連する遺物・青銅器・土器等209点が春日市指定文化財に指定されたことを記念して、令和2年度トピック展示「市指定化記念展～須玖岡本遺跡坂本地区・須玖タカウタ遺跡～」を行いました。

本書は、令和元年度に実施した市内における埋蔵文化財の発掘調査及び奴国の丘歴史資料館の資料館事業の概要をまとめたものです。本書が広く一般に活用され、市民の方々が文化財への理解を深めるための一助となれば幸いです。

最後になりましたが、埋蔵文化財の調査及び資料館事業において御協力をいただきました皆様によりお礼申し上げます。

令和3年3月31日

春日市教育委員会
教育長 扇 弘 行

目 次

I	文化財保護事業の現状と組織	1
II	発掘調査の概要	
1	平若C遺跡（3次調査）	2
2	比恵尻遺跡（2次調査）	5
3	寺屋敷A遺跡（2次調査）	7
4	仁王手B遺跡（5次調査）	10
5	須玖楠町遺跡（3次調査）	13
6	寺田・長崎遺跡（11次調査）	16
7	中白水遺跡（16次調査）	19
8	須玖岡本遺跡岡本地区（22次調査）	22
III	文化財普及啓発事業	
1	企画展示等	
①	トピック展示「須玖岡本遺跡 20次調査の銅剣と把頭飾」	24
②	考古企画展「小水城を発掘する」	24
③	民俗企画展「灯りのかたち」	24
④	奴国の丘歴史公園絵画展・記念物 100周年展	24
2	やきものづくり教室	25
3	ブラかすが（歴史散歩）	25
4	わくわく歴史体験（歴史体験教室）	25
5	奴国の丘フェスタ	26
6	学習支援活動	26
7	博物館実習	26
8	出前講座等	27
9	ボランティア組織	27
10	資料貸出	27
11	入館者数	27
12	利用案内	27
IV	附編（調査・研究報告）	
1	須玖タカウタ遺跡4次調査石製鋳型の追加資料	28
2	民俗文化財の保存・活用	29

例 言

- 1 本書は、春日市教育委員会文化財課が、令和元年度に行った文化財事業の概要をまとめたものである。
- 2 本書の作成は、担当者が分担して行った。
- 3 本書に使用した各種図版の作成は、稲永美紀、吉村美保が行った。
- 4 本書に使用した写真の一部は、有限会社 空中写真企画の撮影による。
- 5 発掘調査の概要については、文末に報告者名を記した。

I 文化財保護事業の現状と組織

春日市では昭和 52 年以降、埋蔵文化財の保存、保護に伴う発掘調査体制を発足させ、整備を行いながら今日に至った。土木、建築工事等による埋蔵文化財の破壊を避けるために事前審査を行い、現状での保存ができない埋蔵文化財については発掘調査による記録保存を行っている。

令和元年度の開発事前審査における文化財有無の問い合わせ件数は 1681 件、事前審査のうち試掘・確認調査は 75 件であり、前年度の件数と比較すると、問い合わせ件数が増加している。開発内容は、共同住宅建設が 30 件 (40%)、個人住宅件数が 31 件 (41%) で、その他の 14 件を含めると申請件数の約 8 割が住宅建設に伴うものである。

このうち埋蔵文化財が確認され、文化財保護法第 93・94 条の規定に基づき本調査を行うようになったものは 9 件、工事立ち合いで対処したものは 34 件である。埋蔵文化財が確認されず、慎重工事で対処したものは 38 件である。

文化財普及啓発事業では、平成 30 年度に実施した特別史跡大土居水城跡と天神山水城跡の発掘調査の成果展として考古企画展「小水城を発掘する」を行った。このほか、市内外への文化財の啓発のため第 9 回奴国の丘フェスタを開催した。本年も地域住民と共同して行うために実行委員会を立ち上げ、市民目線の意見を取り入れながら実施した。さらに、市内小学校の授業や自治会主催のイベント支援、他博物館資料館への資料貸出等、文化財の活用に努めた。

令和元年度の文化財行政にかかる組織体制は次の通りである。

教育長 山本直俊

教育部長 神田芳樹

文化財課長 神崎由美

整備活用担当	統括係長	高田博之	調査保存担当	課長補佐	中村昇平
	主 査	森井千賀子		主 査	吉田佳広
	主 査	大原佳瑞重		主 査	井上義也
	主 査	飛永宗俊		主 任	山崎悠郁子
	嘱託職員	和田奈緒		主 事	熊埜御堂早和子
	嘱託職員	川畑慶紀 (～6 月)		嘱託職員	種生優美
	嘱託職員	坂井和彦 (7 月～)		嘱託職員	川村 博
				嘱託職員	尾方禎莉 (～11 月)

Ⅱ 発掘調査の概要

1 平若C遺跡（3次調査）

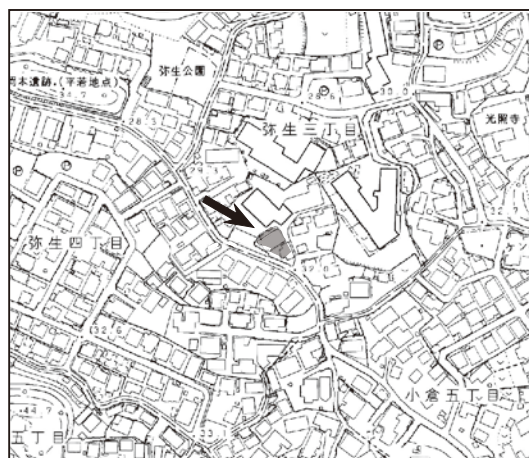
所在地 春日市弥生3丁目70番

調査面積 353 m²

調査期間 2019年4月15日～2019年7月4日

平若C遺跡は春日丘陵の北部に位置し、遺構面の標高は32.6 mである。本遺跡は弥生時代を中心とする遺跡が多く確認される須玖遺跡群内に所在する。過去の調査では円形や方形の竪穴建物跡をはじめ、土坑や溝などを確認した。中には後期初頭頃の青銅器やガラス生産工房と考えられる竪穴建物跡がある。また、2次調査の調査区西部で大溝を確認した。

今回の調査は、2次調査の南側に隣接しており、住宅建設に伴う緊急発掘調査である。



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景（上が北）

遺構・遺物

3次調査では、竪穴状遺構1軒、土坑4基、溝5条、ピットを検出した。

調査区の北西部から南東部にかけて確認された大溝（1号溝）は最大幅6.5m、深さ最大1.4mで、調査区の中央を占める。溝の断面形はV字状をなし、弥生土器、須恵器、黒曜石、石器、鉄器などが出土する。床面からは弥生土器が出土し、須恵器は溝の上層からのみ出土する。鉄器は溝の下層から出土した。

1号溝の北西側および北東側でピットや土坑を検出し、その半数から土器小片が出土した。4号土坑は調査区北東部で確認され、約1.6×0.68m、深さは最大0.75mを測る。スロープを持つことや単独で存在することから、立柱遺構の可能性が考えられる。

調査区南西部壁際で、住居跡の可能性のある竪穴状遺構を確認した。約5.4×2mを測り、弥生土器および土器小片が出土している。

小 結

今回の調査では、調査区の中央を大溝が占め、2次調査で検出された大溝がさらに南に続くことを確認した。また、過去の調査で大溝の北側から北東側にかけて竪穴建物跡が見つかることから、この大溝は集落を囲む環濠と考えられ、さらに広範囲にわたって集落を囲むことが想定される。今回の大溝の発見は、周辺遺跡の調査・研究に影響を与えるだろう。また、集落を囲う大溝の規模については今後の調査に期待したい。（熊埜御堂）



3. 1号溝土層断面（南東から）



4. 1号溝鉄器出土状況（東から）



5. 1号竪穴状遺構（上が北）



6. 遺構配置図 (1/100)

2 比恵尻遺跡（2次調査）

所在地 春日市桜ヶ丘5丁目6番、7番

調査面積 145 m²

調査期間 2019年5月7日～7月19日

比恵尻遺跡は春日市北部の低地に立地する。標高は約15 mで、覆土の状況から長期間、沼沢地であったことが分かる。平成20年度に南側隣接地において実施した1次調査では、弥生時代から中世にかけての粘土採掘坑を検出している。

今回の調査は、共同住宅の建設に伴う緊急発掘調査である。

遺構・遺物

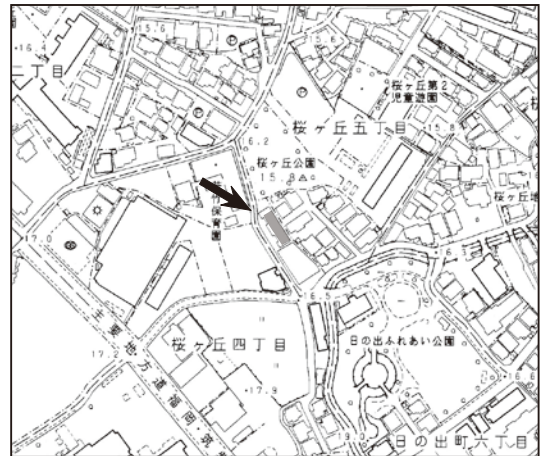
今回の2次調査では、隣接する1次調査地点と同様のピット群（粘土採掘坑か）や土坑を検出したが、出土遺物は更に少量となる。粘土採掘坑と考えられるピット群は、円形や楕円形を呈し、重なり合っているものが多数で新旧関係も不明確である。深さ5 cm前後のものが殆どで、後世の耕作などによって上面が削平され、穴の底部だけが残存したものであると思われる。ピットの一つから銅滓1点が出土している。

1号土坑は調査区南側で検出し、直径約2 m、検出面からの深さ約1 mを測る。埋土は腐植質を含む黒色粘質土で、遺物は確認されなかった。

調査区北側で検出した2号土坑は、1号土坑とは規模が異なり、直径約6 m、検出面からの深さ約1 mを測る大きな遺構である。埋土は1号土坑と同じく黒色粘質土で、遺構底面の砂質土層からは水が湧き出し、常に水中ポンプを使用しての掘削作業となった。土坑の東端に取水口、西端に排水口とみられる部分が存在し、一時的な貯水場の可能性が考慮されるが、遺物が全く伴わないため時代の特定ができず、用途の詳細は不明である。

小 結

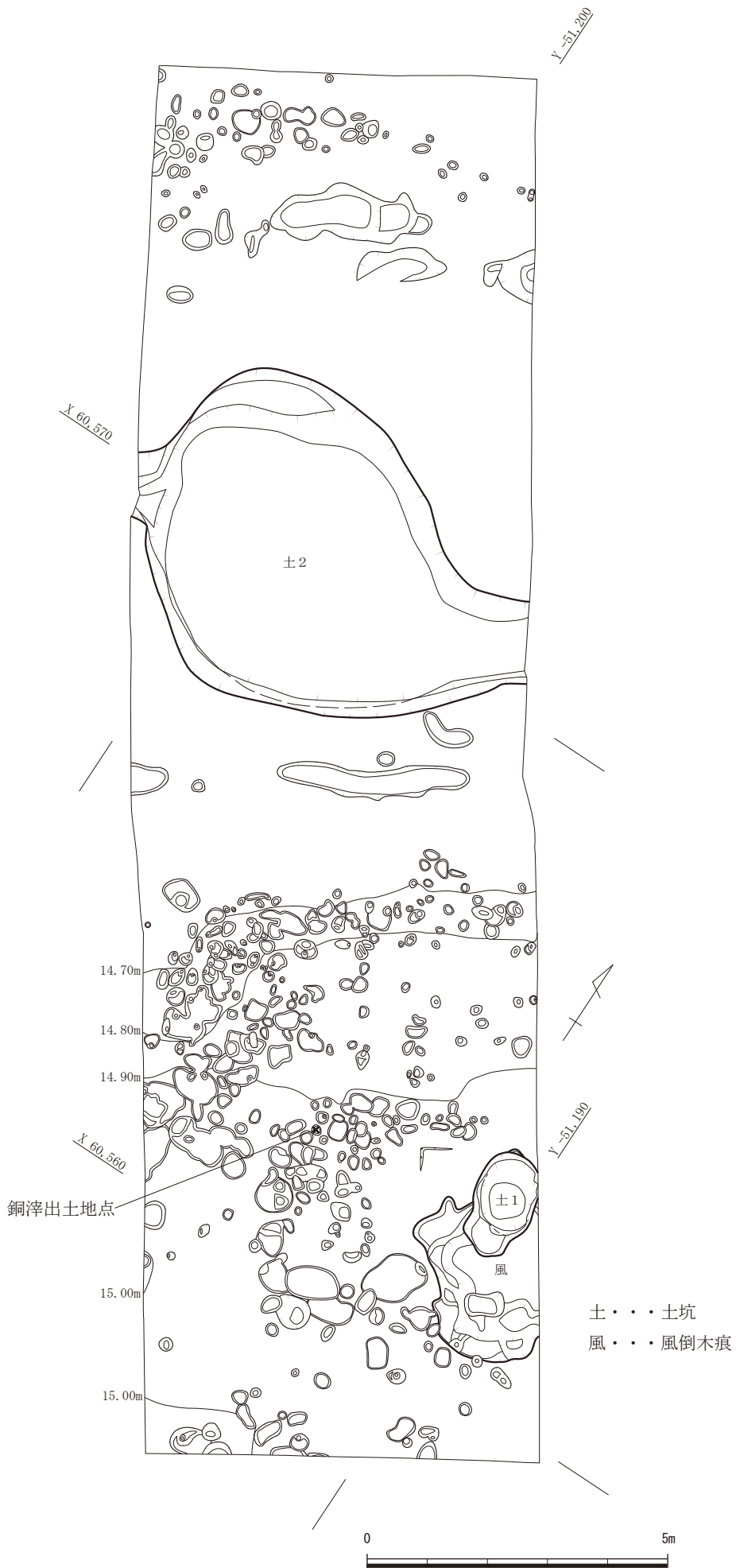
元来、水田として利用されてきた土地であるため、現在の地表面から約1 mの深さまで削平を受けており、遺跡の残存状況が良くなかった。しかし、粘土採掘坑の検出という点から、当地域で良質な粘土が採取できたことが推測できる。目立った遺物としては、銅滓が1点出土しているが、沼沢地という立地環境からすると、当遺跡での青銅器生産は考えにくく、周辺の工房関連遺跡から持ち込まれた可能性が高い。（吉田）



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景北半部（西から）



3. 遺構配置図 (1/100)

3 寺屋敷A遺跡（2次調査）

所在地 春日市小倉4丁目13番

調査面積 225.69 m²のうち31.5 m²

調査期間 2019年5月27日～2019年6月17日

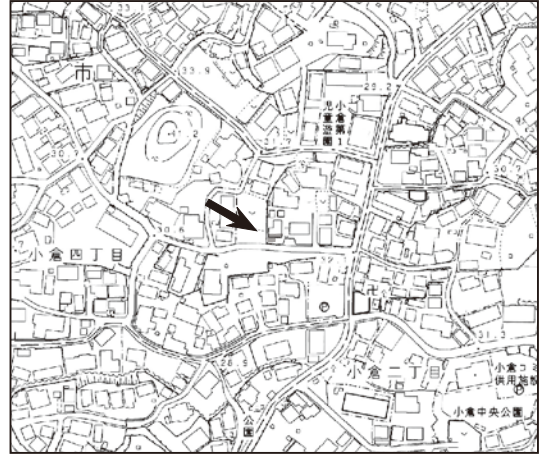
寺屋敷A遺跡は、春日丘陵中央部の丘陵上に位置する弥生時代中期から中世の遺跡で、標高は約30mを測る。昭和63年に実施した1次調査では、丘陵の北側斜面に弥生時代中期～後期の土器包含層の上面から掘り込んだ地下式墳1基が検出された。地下式墳からは、火葬蔵骨器として使用したと考えられる13～14世紀の中国製褐釉壺と古瀬戸灰釉瓶子が出土している。

今回の調査は、宅地造成に伴う緊急発掘調査である。

遺構・遺物

今回の調査では、竪穴状遺構1軒、溝状遺構2条、ピット少数を検出した。

当該地の本来の地形は北西に向かって傾斜しており、弥生時代中期から後期を主体とした土器を多量



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景（上が北）

に含む黒褐色粘質土が堆積していた。黒褐色粘質土の下には、淡褐灰色粘質土が堆積しており、竪穴状遺構とピットはこの層から切り込んでいた。

竪穴状遺構は調査区の北側で検出した。大半が調査区外に続くために断定はできないが、平面形は方形ないし長方形になると考えられる。幅 2.4 m を測り、出土遺物から弥生時代後期に造られたと判断される。溝状遺構 2 条は、幅 30 cm のものが地形の落ち際に沿って東西方向に続いていた。ほとんど遺物を含まないため詳細な時期は不明だが、竪穴状遺構の下層で検出しており、弥生時代後期以前のものと考えられる。

小 結

今回の調査した範囲は非常に狭小で、遺構の性格を明らかにすることは難しかった。付近で古瀬戸の火葬蔵骨器が出土していたことから、中世の遺構を想定していたが、黒褐色粘質土中から弥生土器に交じって土師器の皿が少量出土したのみで、当該期の明確な遺構は確認していない。黒褐色粘質土の包含層に大型の甕や丹塗り土器、ミニチュア土器が含まれることから、当地周辺に存在した弥生時代中期から後期の集落や墓地が、弥生時代以降の開発の中で削平されたと考えられる。(山崎)

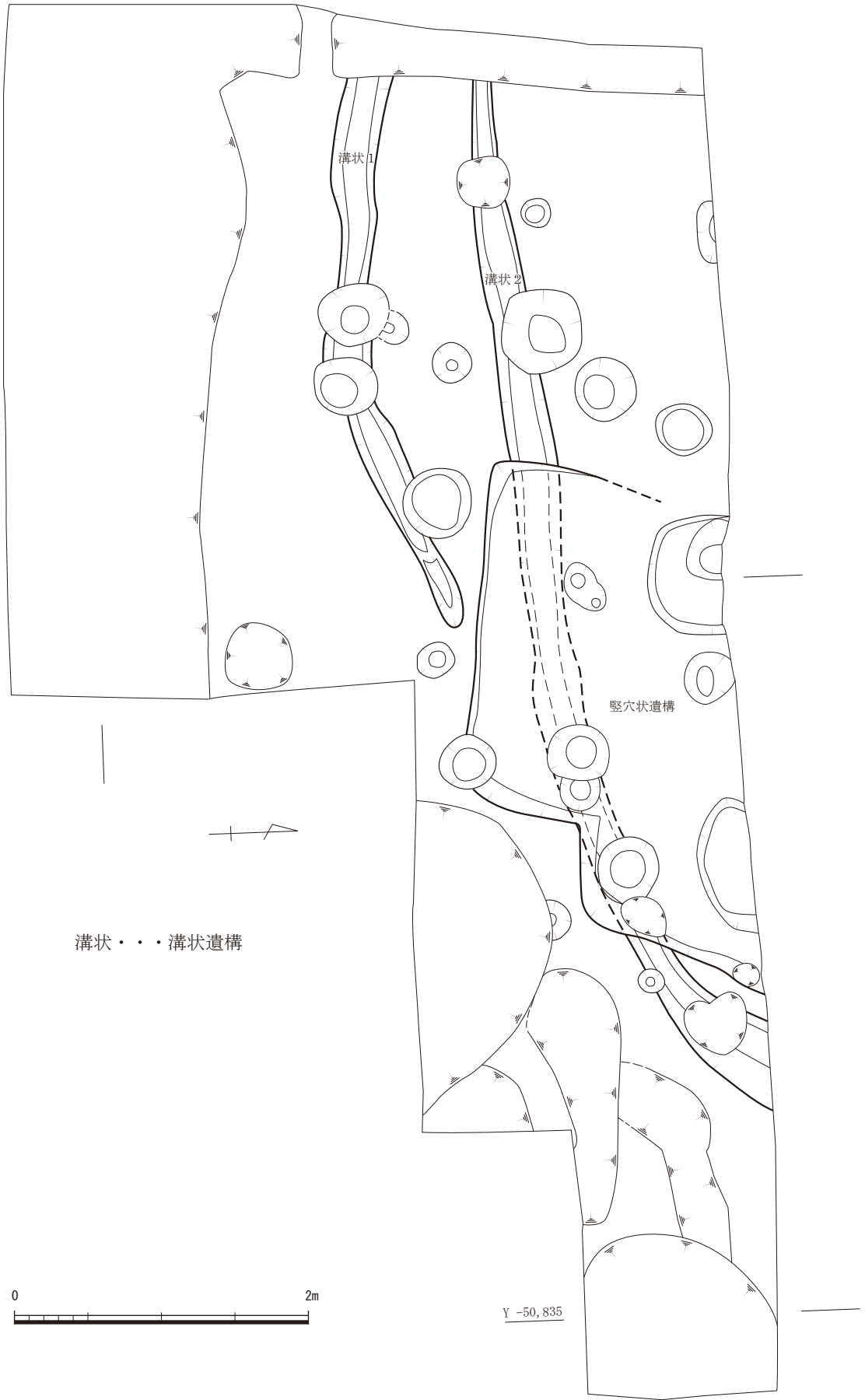


3. 調査区全景（北西から）



4. 竪穴状遺構（北から）

Y -50, 840



溝状...溝状遺構



Y -50, 835

5. 遺構配置図 (1/40)

4 仁王手B遺跡（5次調査）

所在地 春日市小倉7丁目104番

調査面積 252 m²

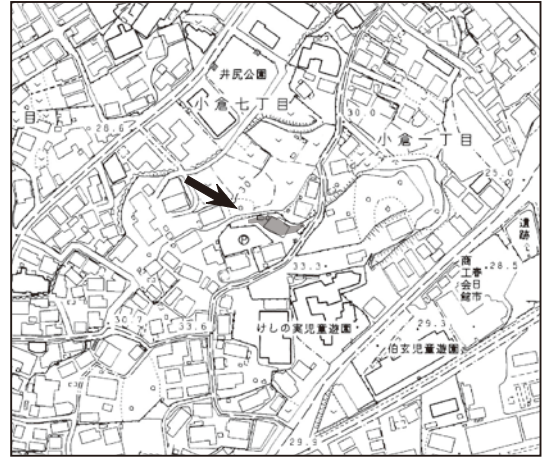
調査期間 2019年8月22日～12月9日

仁王手B遺跡は春日丘陵のほぼ中央にあり、北東方に延びる小支丘上に占地する。標高は約36mを測る。これまでに4回の発掘調査を行い、弥生時代前期末から中期にかけての集落に伴うものと考えられる多くの貯蔵穴を確認したほか、古墳時代の竪穴建物跡や平安時代の木棺墓などが検出されている。今回の調査地点は、2次調査地と3次・4次調査地との間の鞍部となる位置で、仁王手B遺跡が展開する丘陵の北斜面の状況を確認した。後世の整地等により消滅した遺構も多数あると見られるが、全体的に遺構の密度は西側から東側に向かってやや濃密になる傾向がうかがえ、調査区の東部には弥生時代から古墳時代、平安時代にかけての土器を多く内包する遺物包含層が厚く堆積していた。今回の調査は集合住宅建設計画に伴って事前に実施した緊急発掘調査である。

遺構・遺物

今回の調査では、竪穴建物跡1軒、掘立柱建物跡1棟、石蓋土抗墓1基、土坑5基、溝状遺構5条、ピット多数を検出した。

調査区中央部の北壁際に検出した竪穴建物跡は1辺が約4.8mの四角形を呈する住居跡と考えられ、出土した土器や覆土の状況から弥生時代後期に造られたものと推察される。この竪穴建物跡や溝5など、調査区の北東部を覆う遺物包含層を切り込んで造られた石蓋土抗墓は、主体部である土坑の長さが約80cmで、小児用の墳墓と考えられる。蓋石に板状の石材3枚を並べ、内部には少量の赤色顔料が撒かれていた。



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景（西から）



3. 石蓋土抗墓・4号土坑（西から）

掘立柱建物跡は4本柱で柱間の長さ約2.7mを測る比較的小型の建物で、出土遺物がほとんどないため正確な時期は不明である。1号土坑と3号土坑からは弥生時代中期前半の土器が出土した。2号土坑と4号土坑は、全く遺物の出土がなく時期不明だが貯蔵穴と考えられる。5号土坑は竪穴建物跡の底面で検出した。土坑というよりは大型の柱穴とすべき遺構で、検出面からの深さは90cmを測り、直径25cmの柱痕が確認されている。

溝状遺構は溝1、溝2、溝4は直線的に掘削されているが、溝5は等高線に沿ってやや湾曲している。溝3と溝2の重複関係は不明確である。

小 結

これらの遺構の検出状況およびこれまでの発掘調査の成果などから、仁王手B遺跡での集落の変遷が明らかとなった。当遺跡が展開する丘陵では、弥生時代前期から中期にかけて頂部を居住域として利用し始めたことから多数の貯蔵穴群が形成され、また、弥生時代後期から古墳時代にかけて、集落規模の拡大とともに丘陵南斜面に竪穴住居が造られる一方、北斜面が墓地として利用された状況が看取される。その後、居住地や墓地としての利用は途切れるが、平安時代に至ると短期間ながら丘陵尾根の南側に小規模な墓地が営まれたと見られる。中世以降は山林や原野に戻る時期もあったようだが、主に農地として利用されたものと考えられる。斜面を開墾して畑地が開かれ、近世から近代にかけてほぼ現在の地形が形作られたものと推察される。(吉田)



4. 掘立柱建物跡（南から）



5. 竪穴建物跡・5号土坑（南から）



6. 1号土坑（南から）



7. 遺構配置図 (1/150)

5 須玖楠町遺跡（3次調査）

所在地 春日市日の出町7丁目20番

調査面積 496 m²

調査期間 2019年9月24日～2020年1月31日

須玖楠町遺跡は、春日丘陵北側の低地に位置し、諸岡川右岸に位置する。遺構面の標高は16 m前後である。

本遺跡は須玖遺跡群の北部に位置し、周辺には、須玖永田A遺跡、須玖黒田遺跡など青銅器生産遺跡がある。本調査区の北側に隣接する1次調査では、古墳時代初頭の居館跡の可能性があるL字状に屈曲する溝（5号溝）や、掘立柱建物跡などが確認された。

今回の調査は寄宿舍建設に伴う緊急発掘調査である。

遺構・遺物

3次調査では、掘立柱建物跡8棟以上、土坑1基、溝8条、井戸1基、ピットなどを検出し、弥生土器、土師器、石器などが出土した。

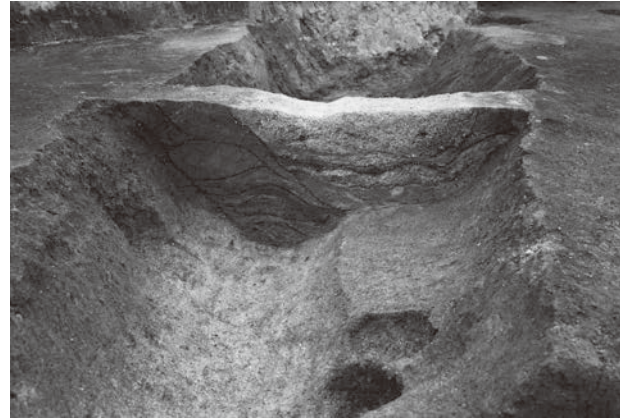


1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景（上が北）

調査区東部で確認された南北方向に延びる1号溝は、最大幅1.6m、深さ0.5mを測る。土層からは、何度か掘り直しが行われていたことがわかる。出土した遺物から、この溝は、歴史時代に水路として使われていたと考えられる。また、1次調査の2号溝に続く溝で、さらに南に延びると考えられる。調査区北部から南へ延びる2号溝は、1次調査で確認された5号溝に続くものである。最大幅1.8m、深さ0.4mを測り、砥石や石包丁の他、多量の土器がまとまって出土した。



3. 1号溝土層断面（北から）

2号溝の東側で掘立柱建物跡を1棟、西側で7棟確認した。2号掘立柱建物跡は、1間×2間であり、そのほかは1間×1間である。特に調査区南西部を中心に確認された掘立柱建物跡は、建物が重複することから、何度か建て替えが行われたことが推測される。中には、掘立柱建物跡が調査区外に広がるものもある。

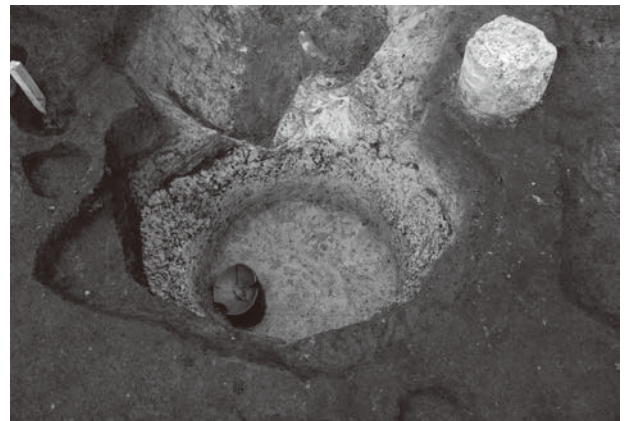


4. 2号溝土器出土状況（北から）

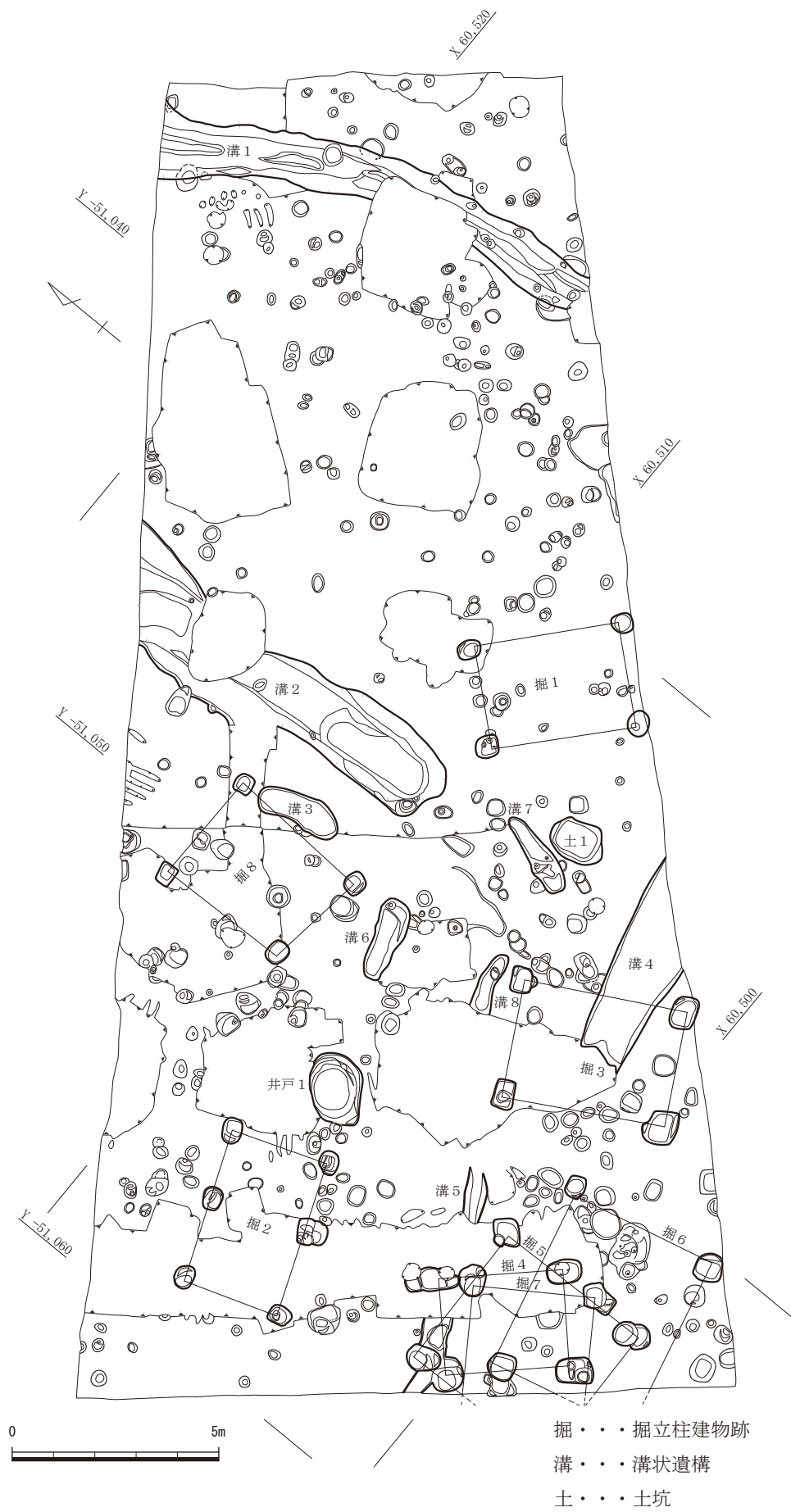
調査区西部で検出した井戸は、約1.2×1.6m、深さ1.15mを測り、下層から完形の高坏や木片が出土した。

小 結

今回の調査で、1次調査で検出された遺構がさらに南に広がっていたことを確認した。当遺跡の周辺に位置する須玖永田A遺跡や須玖黒田遺跡などでは、青銅器生産関連遺物が出土している。2号溝からは、鋭利なものを研いだ痕跡のある砥石が出土したことから、周辺遺跡との青銅器生産の関連性がうかがえる。また、掘立柱建物跡が2号溝の南西部を中心に確認されたことは、L字状の溝の性格を考えるうえで重要であり、大変貴重な調査となった。（熊埜御堂）



5. 1号井戸（南から）



6. 遺構配置図 (1/150)

6 寺田・長崎遺跡 (11次調査)

所在地 春日市下白水南5丁目21番、22番

調査面積 105 m²

調査期間 2020年2月3日～2020年3月5日

寺田・長崎遺跡は春日丘陵西側の台地上に立地し、遺構面の標高は28.5 m前後である。過去の調査では、主に本調査区の北側及び北西側を中心に、弥生時代中期の竪穴建物跡や掘立柱建物跡、甕棺墓などを確認している。特筆されるのは、本調査区より北西側で確認された直径10 mを超える大形の円形竪穴建物跡である。また、本調査区の南側では、弥生時代の他に中世の遺構も確認されている。



1. 調査地の位置 (1/5000)

今回の調査はガソリンスタンド及び店舗建設に伴う緊急発掘調査である。

遺構・遺物

11次調査では、掘立柱建物跡1棟以上、土坑2基、ピットを検出し、弥生土器が出土した。また、



2. 調査区全景 (上が西)

須恵器は包含層及びピットからの出土である。

調査区北東部で検出した1号土坑は、西側が攪乱によって削平されている。平面形が不整形であり、残存約1.1×0.85 m、深さ0.45 mを測る。上層から弥生土器が出土した。

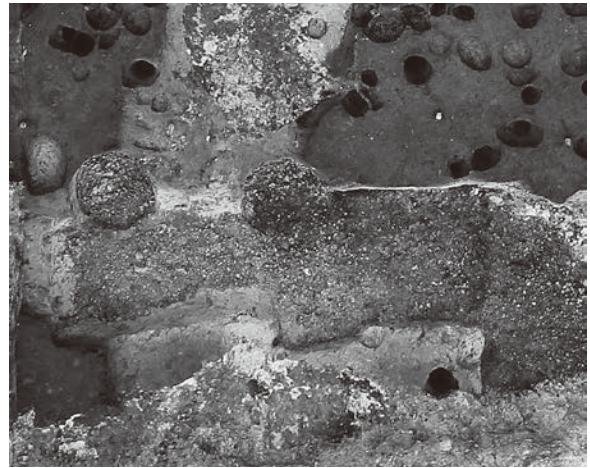
また、調査区西部壁際で検出した2号土坑は調査区外に続くものである。平面形は不整形な形をしており、残存約1.2×0.6 m、深さ0.6 mを測る。

このほか、調査区内で多数のピットを検出し、弥生土器片や須恵器片が出土したが、ピット1からは、表面を磨いた円筒状の土器が出土した。

調査区の南東部で掘立柱建物跡を確認している。桁行3.2 m、梁行2.75 mの1間×1間で、柱掘方は円形に近い形をしている。2つの柱穴は後世の攪乱を受け、そのうち1つは消滅していた。

小 結

今回の調査では、調査区内の広い範囲で遺構が破壊されていたため、遺跡の全容を把握することが困難であった。しかしそのような状況でも、弥生時代中期の土坑を確認したことで、調査区の北側及び北西側で確認された弥生時代中期の集落がさらに南に広がることがわかり、大変貴重な調査となった。
(熊埜御堂)



3. 1号掘立柱建物跡（上が北）



4. 1号土坑（上が西）



5. 2号土坑（上が西）



6. 遺構配置図 (1/60)

7 中白水遺跡（16次調査）

所在地 春日市上白水6丁目140番

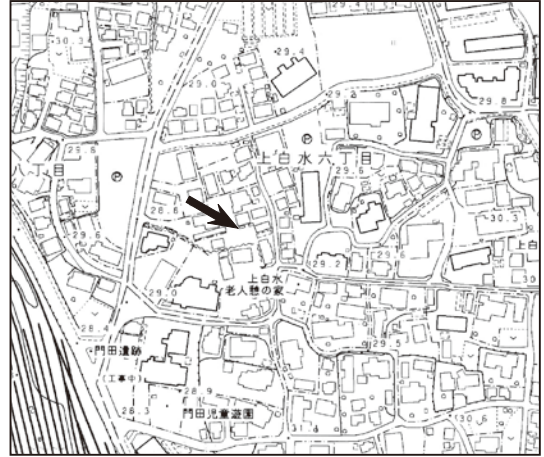
調査面積 92㎡

調査期間 2020年2月5日～2020年3月25日

中白水遺跡は春日市西部の那珂川・梶原川が開析した標高30m前後の中位段丘上に立地する遺跡である。一帯には弥生時代から近世にかけての集落跡が密に分布しており、とりわけ中世白水荘に関する居館跡と見られる、溝で囲まれた建物群の存在が注目される。

今回の調査地は、昭和58年の1～3次調査で確認した居館跡の南西方約200mの位置にあり、遺構検出面の標高は30.3mを測る。また、当地周辺には江戸時代初期に博多の承天寺に移った乳峯寺の末寺（威徳小庵）が江戸後期から明治初期まで存続していたとされている。

今回の調査は専用住宅の建替えに伴う緊急発掘調査で、建築のために地中杭が施工される範囲の内92㎡を調査区に設定し実施した。



1. 調査地の位置（1/5000）



2. 調査区全景（上が北）

遺構・遺物

今回の調査では4基の土坑と2条の溝、ピット多数を確認した。いずれも江戸時代以降に造られた遺構と考えられる。この内、特に注目される遺構は2号土坑で、江戸時代に廃絶し埋められた井戸と見られる。掘方は約3.6 m×2.8 mの楕円形を呈し、検出面からの深さは約2.4 mを測る。井戸枠は抜き取られていたが、最下部の浄水装置と考えられる木桶が残存していた。3号土坑、4号土坑も覆土の状況が共通しており、2号土坑と同様の井戸である可能性が高いものと考えられる。1号土坑は近代の遺構である。調査区の南部を東西方向に走る溝1は2号土坑、4号土坑の埋没後に造られており江戸時代に掘削されたと考えられるが、遺物の出土状況から最終的には明治時代以降に埋没したことが確認される。2号土坑の東側を南北に走る溝2も江戸時代の遺構と考えられるが、出土遺物や遺構の重複状態からは、溝1および2号土坑よりも古いことが明らかである。

小 結

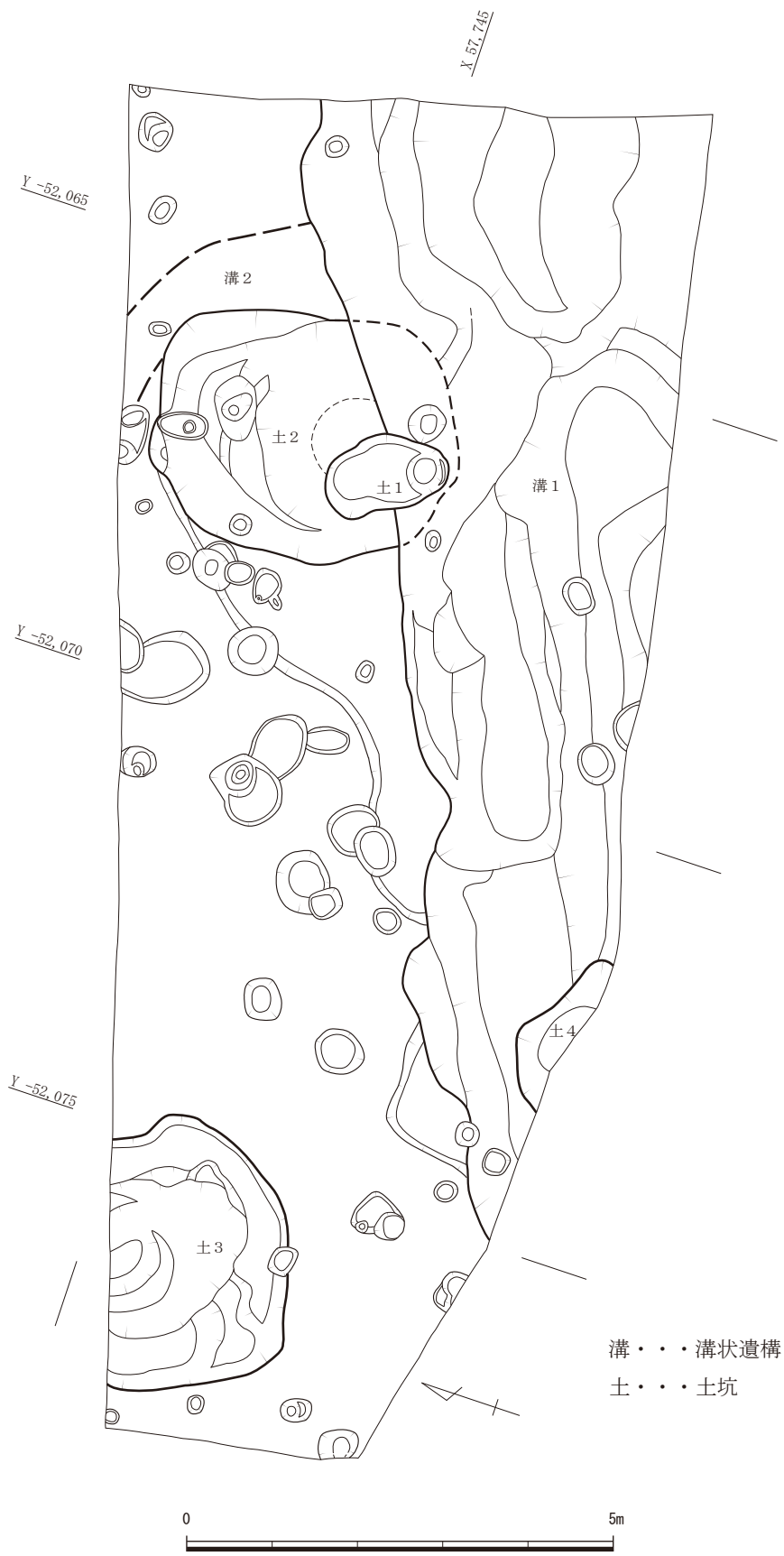
今回の発掘調査で検出した遺構には、青磁・白磁、輸入陶磁器や茶道具など単なる農村の集落ではあまり出土することのない遺物が多く含まれていた。先述した威徳小庵と直接的な関連があるかについては、確証を得るには至らないものの、遺構の時期、性格など複雑な様相を示す中白水遺跡にあって、近世から近代にかけて上白水村の集落形成過程を考察する上では、大きな手掛かりが得られた貴重な調査例となったものと評価できよう。(吉田)



3. 2号土坑（井戸枠）



4. 溝1発掘風景



5. 遺構配置図 (1/80)

8 須玖岡本遺跡岡本地区（22次調査）

所在地 春日市岡本7丁目75番地

調査面積 38.1㎡

調査期間 2019年11月19日～29日

須玖岡本遺跡は、昭和4年の京都帝国大学による発掘調査以降、九州大学、福岡県教育委員会、春日市教育委員会によって多数の調査が行われてきた。

今回の調査は、王墓の南側約20～30mに位置し、墳丘墓が確認された岡本地区7次調査地点の東側にあたる。個人専用住宅の建設を目的とした調査のため、開発予定場所において人力によるトレンチ調査を行った。

遺構・遺物

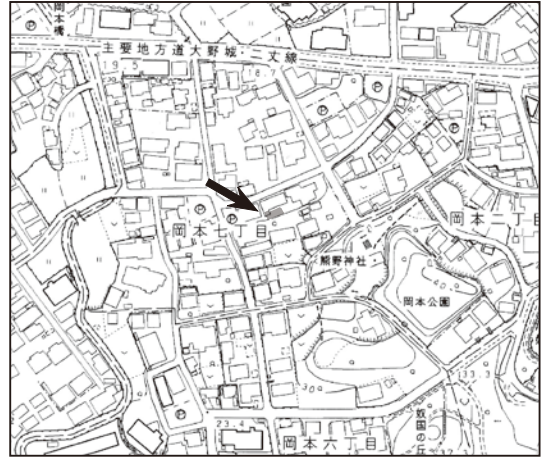
当初トレンチは、開発予定地の南側の標高が高くなることから、南北方向に2本設定した。その後、両トレンチで遺構がほとんど確認出来なかったため追加で東西方向に1本設定し、合計3カ所の調査を実施している。

トレンチ内は、南側では白色の花崗岩風化土、北側では通称「雀の卵」の混じる黄褐色土の地山が確認でき、旧地形が南から北に向かって傾斜するところを平坦に削られた状況だった。

検出した遺構は井戸1基、溝1条、ピット1個である。出土遺物から主に近代以降に属すると思われる。井戸とピットは第2トレンチで検出した。井戸はトレンチの中央で確認した。検出規模1m×1.2mの円形で、上層からは古代の平瓦、近代～現代の陶磁器、木片が出土した。途中で水が湧き出したため完掘していない。幅44cmの溝は、第1～3トレンチを通して東西に延びる。この溝には南側に向かって延びる溝が3条付随する。遺物は弥生土器、近代の瓦等である。土地所有者に聞き取り調査を行ったところ、今回の調査地の南側には過去に民家が存在しており、井戸や溝はその民家に伴うものである可能性が高い。

小 結

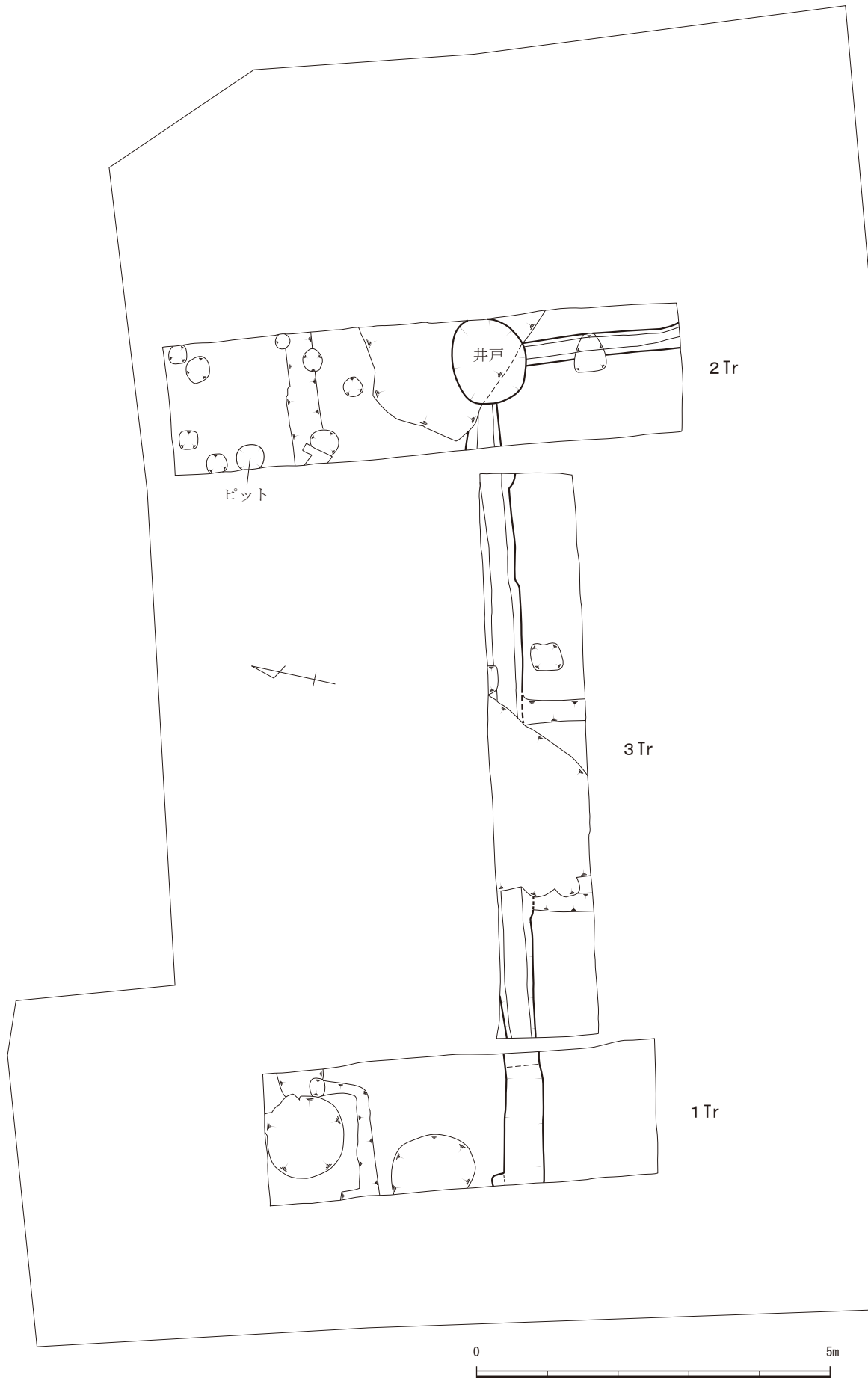
今回の調査では、地形が大幅に改変されており弥生時代の遺構は確認できなかった。しかし、出土遺物には摩滅した弥生土器や古瓦等があり、周辺の調査事例同様、継続的に土地利用が行われていたと考えられる。今後の周辺の調査結果を待ちたい。（山崎）



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 2トレンチ (北から)



3. 遺構配置図 (1/80)

Ⅲ 文化財普及啓発事業

(平成31年4～12月、令和2年1～3月)

1 企画展示等

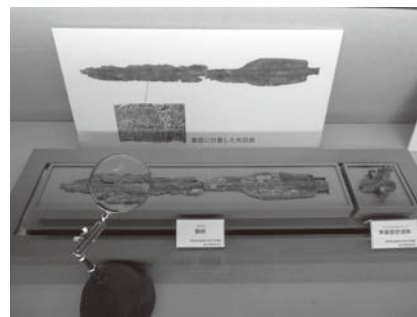
① トピック展示

テーマ 「須玖岡本遺跡 20 次調査の銅剣と把頭飾」

会 期 5月11日(土)～5月26日(日)

会 場 春日市奴国の丘歴史資料館 特別展示室

入館者 366人



トピック展示 展示風景

② 考古企画展

テーマ 「小水城を発掘する」

会 期 9月14日(土)～10月27日(日)

会 場 春日市奴国の丘歴史資料館 特別展示室

入館者 3,018人

関連講演会

日 時 10月12日(土) 14:00～16:00

演 題 「朝鮮半島の古代山城と水城跡」

講 師 亀田 修一(岡山理科大学教授)

会 場 春日市奴国の丘歴史資料館 研修室

参加者 70人



考古企画展 展示風景



考古企画展関連講演会

③ 民俗企画展

テーマ 「灯りのかたち」

会 期 1月18日(土)～3月1日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため2月29日より臨時休館

会 場 春日市奴国の丘歴史資料館 特別展示室

入館者 1,589人



民俗企画展 展示風景

④ 奴国の丘歴史公園絵画展・記念物100周年展

会 期 8月1日(木)～8月28日(水)

会 場 春日市奴国の丘歴史資料館 特別展示室

内 容 春日北中学校の生徒による歴史公園のスケッチを展示した。また、同会場にて、文化庁主催事業「記念物100周年展」のパネル展示を行った。



絵画展 展示風景

2 やきものづくり教室

毎月第2土曜日にウトグチのぼり窯体験広場で午前、午後各1回やきものづくり教室を実施した。(7月、8月、3月を除く)

参加者(年17回実施)合計 182人



やきものづくり教室

3 ブラかすが(歴史散歩)

第1回 日時 4月20日(土) 9:15～12:00

コース 奴国をみる

参加者 12人

第2回 日時 5月19日(土) 13:00～15:30

コース ベースハウスをみる

参加者 18人

協力 ベースハウスの会

第3回 日時 10月19日(土) 9:00～15:00

コース 水城をみる

※雨天中止

第4回 日時 2月22日(土) 9:00～16:30

コース 灯りをみる(民俗企画展関連企画)

※新型コロナ感染拡大防止のため中止



第1回歴史散歩



第2回歴史散歩

4 わくわく歴史体験(歴史体験教室)

第1回 土器をしる、つくる

日時 7月27日(土) 9:30～12:00

場所 春日市奴国の丘歴史資料館 実習室

参加者 22人

第2回 土器をやく

日時 8月24日(土) 9:30～12:00

場所 春日市奴国の丘歴史資料館、歴史公園

参加者 22人

第3回 和綴じ本づくり

日時 11月23日(土) 9:30～12:00

場所 春日市奴国の丘歴史資料館 研修室

参加者 23人

講師 藤井 良昭(修理工房宰匠株式会社代表取締役)



土器をしる、つくる



土器をやく

第4回 しめ飾りづくり

日 時 12月14日(土) 9:00～11:30

場 所 春日市奴国の丘歴史資料館 実習室

参加者 30人

講 師 井上 久人(浦原八幡宮氏子)

第5回 むかし遊び

日 時 1月18日(土) 9:30～12:00

場 所 春日市奴国の丘歴史資料館 研修室

参加者 14人

講 師 春日市あそび名人の会

5 奴国の丘フェスタ

春日市には弥生時代の重要な遺跡が密集し、中国の歴史書に記された「奴国」(なこく)の中心地であったとされている。そうした歴史や遺跡を市民に広く周知し、理解を深めてもらうことにより、都市化の中で失われつつある郷土への愛着や誇りを育むことを目的として、歴史資料館の機能と隣接する歴史公園の景観を活かした様々なイベントを行った。

日 時 令和元年9月27日(土)

会 場 春日市奴国の丘歴史資料館、歴史公園一帯

来場者 約2,200人

6 学習支援活動

小中学校の授業や生涯学習活動の一環として資料館の展示見学や遺跡見学、体験学習の説明・指導を実施した。

市内小中学校 26件(3,773人)

市内中学校職場体験 3件(13人)

一般団体 47件(832人)

7 博物館実習

教育普及活動の一環として、大学から博物館学芸員課程における実習生の受け入れを行った。

大学 1件(2人)



和綴じ本づくり



しめ飾りづくり



むかし遊び



奴国の丘フェスタ



学習支援活動(見学)

8 出前講座等

自治会等が開催するイベント等への支援を行った。

自治会等 13 件

9 ボランティア組織

奴国の丘歴史資料館および隣接する須玖岡本遺跡の見学者に案内・解説を行う資料館ガイドと、ウトグチのぼり窯体験広場で実施するやきものづくり教室を支援するやきものボランティアが組織されている。

資料館ガイドボランティア 13 名

やきものボランティア 21 名

10 資料貸出

考古資料等 3 件

民俗資料 1 件

古文書 1 件

写真資料 22 件

11 入館者数

奴国の丘歴史資料館 11,763 人

ウトグチ瓦窯跡館 806 人

12 利用案内

開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日 毎月第3火曜日（休日に当たる場合はその翌日）
年始年末（12月28日～1月4日）

入館料 無料（特別展では有料の場合あり）

駐車場 無料駐車場有 22台駐車可

交通アクセス JR鹿兒島本線 南福岡駅より徒歩20分
西鉄天神大牟田線 雑餉隈駅より徒歩25分
九州自動車道 太宰府インターより車で5km
春日市コミュニティバス

① 桜ヶ丘線 奴国の丘歴史資料館前下車すぐ

② 須玖線 岡本1丁目下車徒歩5分



学習支援活動（現地説明会）



職場体験



博物館実習



出前講座



ボランティア養成研修

IV 附編（調査・研究報告）

1. 須玖タカウタ遺跡4次調査石製鋳型の追加資料

1 はじめに

須玖タカウタ遺跡4次調査では、1号竪穴建物跡を中心に石製鋳型8点、土製鋳型26点が出土したことが報告された。石製鋳型は、滑石系の石材で占め、九州の一般的な鋳型石材である石英長石斑岩は見られなかった。また、土製鋳型については、今まで九州では筑前町東小田峯遺跡例1点が知られるのみで、当遺跡のようにまとまって出土した例はない。さらに、鋳型の中には、他に類例のない青銅器の鋳型や銅戈鋳型等のように一対になるものも含まれる。これらの鋳型群は、豊富な土器と共伴したため、最古級の青銅器生産を示す中期前半の資料であることが明らかになった。以上のことから九州の弥生時代の青銅器生産を再考するきっかけとなり、令和元年2月21日には市指定文化財になった。

今回報告する鋳型小片は、市指定の準備段階に新たに発見したもので、他の資料と同様に市指定文化財となった。

2 鋳型

報告する鋳型小片は、竪穴建物跡の屋内土坑から出土した。なお、屋内土坑の内外からは他の鋳型類も集中して出土する。武器形青銅器の脊部鋳型で、型を中心に黒変するために鋳造されたことが分かる。小片のため傾き、天地などは断定できない。長さ2.6cm、幅0.8cm、断面形の厚さ1.25cm。石材は、肉眼観察では茶灰色を呈する滑石岩。

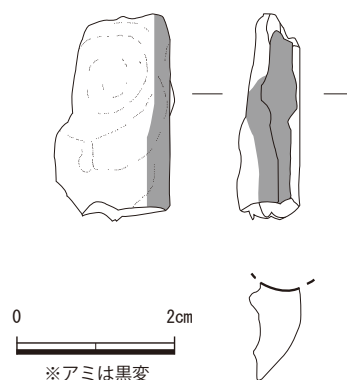
3 おわりに

本項では報告書から漏れた鋳型を報告した。小片のため器種までは断定できないが、武器形青銅器の脊部の鋳型で間違いない。他の鋳型との接合を試みたが、合致しなかった。石材から考えれば3号鋳型（銅矛／銅矛）ないし4号鋳型（有柄銅劍／銅劍）の同一個体である可能性がある。

当資料を含めると須玖タカウタ遺跡からは、石製鋳型9点、土製鋳型26点の合計35点の鋳型が出土したことになる。



鋳型写真



鋳型実測図 (1/1)

2. 民俗文化財の保存・活用

① 民俗文化財調査

春日市には、国指定重要無形民俗文化財である春日の婿押しをはじめ、嫁ごの尻たたきや盆綱引きなどの様々な行事があるものの、近年の急激な社会構造の変化や継承する担い手の高齢化によって変容・衰退したものも多くみられる。また、絵馬や石造物といった有形民俗文化財も市内各所に見られるが、全容把握がされていない。そのため令和元年度から民俗文化財調査専門員を配置し、記録・保存を目的とした調査を実施した。

【調査内容】

〔無形民俗文化財〕

- ・ 8月 3日（土） 盆綱引き（小倉地区）
- ・ 8月 7日（水） ドンカン祭り（岡本地区）
- ・ 10月 17日（木） 秋祭り神事（熊野神社）
- ・ 10月 17日（木） 例祭（住吉神社）
- ・ 10月 20日（日） 宮座祭（春日神社）
- ・ 1月 11日（土） 春日の婿押し 準備（春日地区）
- ・ 1月 12日（日） 春日の婿押し 本番（春日地区）
- ・ 1月 13日（月・祝） 春日の婿押し 片付け（春日地区）

〔有形民俗文化財〕

- ・ 絵馬調査
- ・ 石造物調査（庚申塔）

【調査報告】

「盆綱引き（小倉地区）」については、福岡県「祭り・行事」調査の1つとして、福岡県「祭り・行事」調査委員会の田中久美子委員と協働で調査を実施した。また「春日の婿押し」については、婿押しの前日の準備から片付けまでの3日間の調査を行い、現在の実施状況の確認を行った。

② 民俗資料（民具）整理作業

市に寄贈された民俗資料（民具）について、令和元年度から改めて整理作業を行うこととした。民俗資料（民具）の大きさや記銘、破損箇所、虫害などの状況を実際に確認した上で、写真撮影を行い、基礎的なデータを有形民俗文化財カードに記録する作業を実施した。また、収蔵スペースの環境調査や民具のクリーニングなども並行して実施した。この調査の成果は、企画展や民具の紹介資料、学習支援などで活用していきたい。



ドンカン祭り



春日の婿押し



絵馬（春日神社）



整理作業の様子

令和元年度
春日市文化財年報

発行日 令和3年3月31日

編集・発行 春日市教育委員会

福岡県春日市原町3丁目1番地5

印刷 大道印刷株式会社

福岡県春日市日の出町6丁目23番地